

可憐な高山植物

＝室堂の生きものたち＝

立山物語

ハイマツがいますが、これは積雪量の少ないところに繁殖するため、風上の斜面に多く見られます。このハイマツの下部には、コケモモ・カンコウラン・マカモ

清水 巖



ノキバナシヤクナゲ・クロマンノキなどの低木がはえています。そしてここがライチョウの大切な住み家なのです。とくにライチョウは生きた化石といわれ、国の特別天然記念物に指定されていますが、彼らの生活を守り、心ない登山者とならぬよう、じょうぶに保護せねばなりません。



ハイマツ帯の住人

交通機関の発達した今日、標高二四〇〇の室堂は、身近な所となりました。しかし、高山としての「生きものたち」は、平地とは全く異なるので、その生活環境を簡単に紹介してみよう。



保護色のライチョウ

雪渓の水でうるおった花崗岩の住人たちは、短い夏を精いっぱい生き、長い冬を備えます。

▼冠水していないところのハイマツは、夏にはホンカサが賑やか

▼濡った斜面はコバイケソウ・シラネキンバイ・ハクサンイチゲなどの高草本植物。

▼崩壊しやすい斜面はイワノカリヤス・ミヤマノカリヤスなど。

▼水はけのよい斜面はアマガヤシヨウジョウソウ・チングルマなど。

▼乾燥しやすい岩場はアオノツガサク・ミネアサウなどの小低木がはえるが、岩場としてオコシヨ(タチシ)の住むことも忘れてはならない。

▼室堂といっても個々の場所の条件の差が大きいので、大まかな分類をしてみました。歩く場所として次の場所も興味は尽きませぬ。

▼みくろが池周辺の住人たち
立山火山の火口湖、池の周辺は

↑ハクサンイチゲ

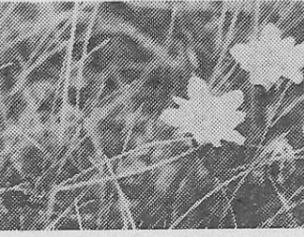
↑タチヤマリンドウ



↑タチヤマリンドウ



コバイケソウ



↑ハクサンイチゲ



コバイケソウ

ハイマツ帯はミヤマハンノキ、積雪期間が長いために生じる裸の地肌と三稜を呈している。周辺斜面の上部の草地やハイマツ帯には、イワカガミ・ハタサソウなどがサキキク・ミヤマリンドウなどがあり、ミヤマハンノキ・ウラシロオナカマツの低木が混生し、タチヤマササ・ウラシロタチヤが群生している。とくに周辺のハイマツはライチョウの住み家でもあるが、夏にはホンカサが賑やか

に飛び交うこともある。以上、かけ足で記してみました。室堂平を滞在するのならば深く観察できるでしょうが、短い時間の探索で最も効果的な方法は

一、立山自然保護センターの利
用
館内は、ライチョウの四季を通じて立山の紹介をしていますが、雨やガスなど視界のきかないときは最適でしょう。

二、歩いてみる
高山植物は、わずかに数株からコバイケソウやチングルマの群生のように巨匠のものまで千差万別。草むらの前でちょっと腰をおろしてのぞいて下さい。すばらしい景観が眼前に開けるので、富山県自然保護員・写真も

生きものといえはまたまた数えきれない位ありますが、一応一室堂を歩いてという趣向にとどめました。

私たちが高山植物を見たときの驚きは「こんな小さな」ということでした。そしてこの小さな世界をのぞいたことが、いつの間にか広い大きな世界へと歩き始めていたのです。(つづく) 財団法人・富山県自然保護員・写真も

今も鷗外の旧居残る

鷺原八幡宮は公園の先駆

森鷗外の旧居

文学博士。上京してからは津和野に帰ることもなく、大正十一年(一九二二)七月九日死去した。鷗外はこの家の思い出を『書簡』(かき)で残している。その中でも土俵をめぐらした鷗外の家は、今も残っている。春になると、柳の芽は枝も見え、内側の塀の上から真赤な花が見えて、お茶屋の芽の吹いているのが見える。鷗外は、彼が幼少を過ごした母の隣り、子も祖母について勉強を始めた。鷗外の復讐を見てもうたという。鷗外は、彼が幼少を過ごした母の隣り、子も祖母について勉強を始めた。鷗外の復讐を見てもうたという。

山陰の小京都・津和野

< 3 >



眼下に芦の湖、ひろがる湖尻高原。静寂のなかに憩いのひととき。

＜修学旅行の専用旅館＞
〒250-05 神奈川県箱根町湖尻高原
箱根高原ホテル
電話0460-4-8595(代表)

東京コマ旅行会館は第8回優秀防火建築表彰で建設大臣賞を受賞いたしました。東京でのお泊りは安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近に望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様により有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル＜全館和室＞
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585-1046(代表)

東京 コマ旅行会館

チロル風のホテルは仲良し8人が一緒です。

集団生活の安全管理と宿泊の生徒さんの自主管理の両面から入念に設計された＜スズカビレッジ＞

2人で1台実物のエンジンを分解・組立てる
250名収容のテクニカルホールの生きた科学教育。
空へ、水へ、緑の中へ…自分でハンドルを握る“ゆうえんち”
国際レーシングコースを走るレーサー気分も……
そして陽の落ちた広場でファイアーストームを囲んで校歌を歌うひととき——
チロル風ビレッジの一夜、翌朝伊勢湾から昇る朝日も忘れがたいもの、どれを取っても学生生活を刻んだキラリと光るひとコマです。

昨年一年間で11万人もの学生さんがこの思い出深い修学旅行を体験しています
「人と科学と自然の接点」
今年の修学旅行こそスズカを加えた(新近畿ルート)をご検討ください。
スズカから京・奈良・伊勢・志摩へも2時間の距離未来と過去を結ぶ理想の修学旅行コースです。
随分なビッグ・レジャーランド

鈴鹿サーキット 三重県鈴鹿市稲生町 電話=0593(78)1111
本社: 東京都中央区八重洲2-6-20 ☎03(274)5821
大阪営業所: 大阪府北区芝田町2-1-1 ☎06(372)1526